

VIII. 能力開発プログラム展開の実際

キャリアラダー		国立療養所沖縄愛楽園 看護部			
	レベル I	レベル II	レベル III	レベル IV	
到達目標	①ハンセン病看護に必要な基本的能力を習得する。 ②根拠に基づいた看護を実践する。 ③仲間と共に学習する。	①個性を重視した看護を実践できる。 ②看護実践者として、後輩の支援的役割を果たせる。	①後輩の学習を支援する。 ②チームリーダーとしての役割行動がとれる。	専門性の発揮、管理・教育的役割モデルとなり、研究的に取り組む。	
I ハンセン病後遺症や高齢者に必要な専門的知識・技術を有し、自ら実践できる	1 自ら情報を得て入所者のニーズをアセスメントする。	1 入所者の個性を捉えたニーズをアセスメントする。	1 ニーズとニーズの関連を明らかにする。	1 多様なニーズを把握し、入所者の価値観を反映した判断ができる。	
	2 入所者・家族の反応を受け止め、援助的関係を形成する。	2 入所者・家族とのコミュニケーションを促進し、援助的関係を築く。	2 入所者・家族の立場や状況を見極め、安定した援助関係を維持する。	2 入所者・家族、多職種との関係の構築について後輩の役割モデルとなる。	
	3 医療安全管理マニュアル・院内感染対策マニュアルに基づき危険を予測し、看護を実践する。	3-1)医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づき主体的に行動する。 3-2)部署内の医療安全・感染防止に関する問題提起する。	3 所属部署内の医療安全・院内感染防止に関する問題を改善するために、主体的に対策を提案し、継続して実践できるよう働きかける。	3 医療事故防止対策や感染予防対策について他部署に働きかける。	
	4-1)看護基準・手順に沿った看護を実践する。 4-2)根拠に基づいた看護を実践する。	4 入所者の個性を重視した看護を実践する。	4 状況に応じ、適確な判断のもと看護を実践する。	4 状況に応じて、医療チームに働きかけ、看護を実践する。	
II 高い倫理観に基づき、入所者に納得していただける質の高い看護が提供できる	1-1)多様な価値観、信条や生活背景をもつ人を尊重した行動がとれる。 1-2)倫理上のジレンマを表現する。	1 医療倫理、看護倫理上の問題に気づき、問題提起する。	1 倫理的問題の解決に向け、権利擁護に向けた行動をとる。	1 倫理的視点に基づく看護実践の役割モデルとしての行動をする。	
	2-1)看護ケアについて入所者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る。 2-2)入所者・家族の思い・考え・希望を理解しケアにいかす。	2 入所者・家族にわかりやすい説明と必要な情報提供を行い、意思決定の支援をする。	2 高度かつ複雑な看護を必要とする状態の入所者及び家族に対し、適切な説明と助言を行い、意思決定の支援をする。	2 入所者の意思決定支援において後輩の役割モデルとなる。	
III 多職種と協働し、ライフサポートが実践できる	1 看護チーム内での役割を理解し遂行する。	1 主体的に看護チームの一員としての役割を遂行する。	1 看護チームのリーダーとして行動する。	1 看護チームの役割モデルとして行動する。	
	2 多職種と情報共有し、入所者に必要な情報交換を行う。	2 多職種と連携・相談する。	2 多職種と協働する。	2 多職種と協働・調整する。	
	3 ライフサポートの基本的考え方を理解する。	3 エンド・オブ・ライフを考慮したライフサポートを実践する。	3 ライフサポート実践者として役割モデルとなる。	3 実践したライフサポートを概念化する。	
IV 園の運営に関心を持ち、他部門と連携し自部署の課題解決に向けて行動がとれる	1-1)看護ケアの質の評価や改善の必要性を理解する。 1-2)看護ケアの質向上のための改善点に気がつく。	1 看護ケアの質の評価を行い、看護の質向上に向けた改善の手立てを提案する。	1 チームの中で看護ケアの質を評価し、看護の質を高める行動をとる。	1 チームの中で看護ケアの質を評価し、改善するための方策をスタッフを巻き込んで取り組む。	
	2-1)ハンセン病療養所が担う医療を理解する。 2-2)ハンセン病療養所が担う医療に関心を持つ。	2 社会の医療の変化に目を向け、園が担う医療に関心を持つ。	2 社会の医療の動向を踏まえ、看護やケアに関連した課題を見つけ、解決する。	2 社会の医療の動向を踏まえ園が担う看護や園の運営の課題をみつけ、解決の方策を考える。	
	3-1)当園の運営目標と看護部の位置づけを理解する。 3-2)組織の目標を理解し、目標達成に向けて行動する。	3 自部署の目標達成のための役割遂行できる。	3 リーダーの役割を理解し、主体的に行動する。	3 自部署の課題に対し、他部門と調整しながら解決行動をとる。	
	4-1)コスト意識を持つ。 4-2)医療用消耗品・医療用機器を管理する。 4-3)一般消耗品を管理する。	4 診療報酬と看護実践の関連について理解する。	4 業務改善に取り組む。	4 経営改善・業務改善に取り組む。	
	5 当園の危機管理対策について、園内各規程に基づき行動する。(地震・津波・台風・火災・事故等)	5 当園の危機管理対策について、所属部署内の問題を提起する。	5 所属部署内の危機管理対策に関する問題を改善するために、主体的に改善策を提案し、継続して実践できるように働きかける。	5 当園の危機管理対策について他部署に働きかける。	
V ケアリングやリフレクションを通して看護を振り返り、自身の看護観を高められる	1 日常の看護実践の中で、看護行為の振り返りを習慣づける。	1 経験を日々の看護実践にいかし、自己の看護観を高める。	1 自己のキャリア形成について具体的な展望をもち、主体的に自己研鑽する。	1 自己のキャリアアンカーを確認し、役割モデルを果たす。	
	2 看護実践における問題意識をもつ。	2 後輩の学習を支援する。	2 後輩育成の役割を果たす。	2 チームで学習できる環境を整える。	
VI 看護研究を通して看護の本質を追究、ハンセン病施設の看護を発信できる	1 自己の課題を見出し文献学習する。	1 自己の看護実践の意味づけを行う。	1 研究的態度を身につける。	1 研究的に取り組む。	